

校旗・校章・校歌

校 旗



校 章



昭和 31 年、二科会の重鎮として活躍されていた龍ヶ崎市下町出身の洋画家・故 服部正一郎先生によりデザインされたものである。

鏡の形は女性の心を表し、八咫の鏡からとったもので、登り龍は龍ヶ崎の地名にちなんでいる。

校 歌

校 歌

神保 光太郎 作詞
貴島 清彦 作曲

一、
みどりはもえて朝が来る
ほまれの歴史 龍ヶ峰
相寄るいのち青春の
鍛えん ここに

いざ 輝く 母校

二、
はるかにかなた大利根よ
清らに行けとわれを呼ぶ
真理をもとめ今日もまた
学ばんここに

いざ 輝く 母校

三、
まぶたに親し筑波嶺よ
理想は高しこの歩み
世紀の明日を開くもの
進まんここに

いざ 輝く 母校

校歌は昭和 30 年の制定で、当時、日本大学の教授であった神保光太郎・青島清彦両先生によって作られました。神保先生は直接龍ヶ崎を訪れ、この龍ヶ峯の台地に立ち、想いを巡らしたそうです。詞は、龍ヶ峯からの眺望のなかに、勉学にいそしむ者のもつべき心を見事にうたいあげ、さらに、一番の「歴史」、二番の「今日」、三番の「明日」という詞は、歴史をふまえて、今日に生き、明日へと飛躍する若人と本校の姿をうたったものである。